

三十一冊
29

176

政六未五月下旬

御用留

今と書ふ

0001

御坊村文書 文書番号 018

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

011
176

和
平
堂
印



吉村一太郎田舎色持赤紙
主修中村書

吉村一太郎
御坊村

御坊村
吉村一太郎

0002

御坊村文書

文書
番号

018



一 御坊村の村長

佐々木

一 御坊村の村長

一 御坊村の村長

御坊村の村長

御坊村の村長

御坊村の村長

御坊村の村長

御坊村の村長

サリキ

東村西谷主人

謝安石

之村如坐此約從所自左右
 前之者人少中一及之者
 後之者人少中一及之者
 後之者人少中一及之者

五

謝子云

唐文
肝部

水之報

中

生

三
卷
報
中

空

人面

朱之月

以付肝愛

ちん

負

金

八
五
五

估

柳文

寺村如左依云仰見書堂之跡
 佛之礼也一後即并中而佛之
 礼好ね南より有りて右に因り
 中より後堂より有るなりとあり
 寺中へ入ると後山に高き山あり
 佐々木向備村の古里とあり
 乃屋古之新よりあるなりとあり

下は海もろく上は山もろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく

肝煎
御坊村

肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村
肝煎村の御坊村の御坊村

後由るゝは休庵弟左衛門
時運一平花山と名づる

一 白雲

山崎

一 一

一 一

少頃

右の字平左衛門と名づるは
高倉左衛門の兄で、
修右衛門の父は、
高倉左衛門の兄で、
高倉左衛門の父は、
高倉左衛門の父は、

高倉左衛門

村人

[illegible]

本邦は、通商の爲に、
 諸君の、
 交り、
 中、
 親、
 而、
 子、
 大、

日ぬきとくたむ村役所書あり
は報き報ふとて同くふとふ人
きとふとて同くふとふ人
ありとて同くふとふ人
ふとふとて同くふとふ人
ふとふとて同くふとふ人
ふとふとて同くふとふ人
ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

ふとふとて同くふとふ人

0010

新島子新島村に於て一泊し其處
に於て其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書

御坊村文書
 御坊村文書
 御坊村文書

御坊村文書
 御坊村文書



御坊村文書

0015

御坊村文書 文書番号 018



去年正月東洋へ行く所を
上りくわし路より山を越え
る所を道邊より行る所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を

うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を
うしろに山を越えたる所を

石

二

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石



御坊村文書

一書より其直に書名なりと云
りぬる一紙に今より半紙に
左より右に書名なりと云
地名を記すなりと云
一書より其直に書名なりと云
りぬる一紙に今より半紙に
左より右に書名なりと云
地名を記すなりと云

御坊村文書

右通より一紙に書名なりと云
りぬる一紙に今より半紙に
左より右に書名なりと云
地名を記すなりと云

安政乙

未だ

御坊村文書
日付
御坊村文書

0023

御坊村文書 文書番号 018

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

高野
川
村
御坊

高野
川
村
御坊

高野川村御坊

高野川村御坊

高野川村御坊

高野川村御坊

高野川村御坊

高野川村御坊

おぼやけとやういふ事
一五の村を結ぶ所、おぼやけとやういふ事
所、中を出入用、中を出入用
中を出入用、中を出入用
一五の村を結ぶ所、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事

一五の村を結ぶ所、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事
おぼやけとやういふ事、おぼやけとやういふ事

守有妻

古田古田

國語研究會

學永昌

南情如夢
夢中夢
夢中夢

吳上上孔

[illegible]

右様 御坊村 寺 近 御坊 寺

一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺

一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺

一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺

一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺

一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺

一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺

右様 御坊村 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺
一 長 中 御坊 寺 近 御坊 寺



昔より小石を事とし作らるる後太
口より小石を事とし作らるる後太
又言細等一上石等一上石等一上石等
日事作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし

作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし
作らるる後太口より小石を事とし

一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事

一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事
一 大徳寺の南無阿彌陀仏の事

今更に... 御坊村... 寺... 名...

右通... 御坊村... 寺... 名...

御坊村... 寺...

安永二年

未子...

日新...

寺...

右通... 御坊村... 寺...

御坊村... 寺...

御坊村... 寺...

一、御坊村

二

御坊村

坊主

右名寄、大元、千、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

御坊村

坊主

一、御坊村

二

坊主

御坊村

御坊村

一、御坊村

二、御坊村

三、御坊村

四、御坊村

0033

三才圖會

李

店利

焰

佛經

山國山國わんわん山國山國山國山國
 山國山國わんわん山國山國山國山國
 山國山國わんわん山國山國山國山國

三

第 二 卷

吳昌碩

一、佛用此法
二、佛用此法
三、佛用此法

一師平世西柳順安寺毫筆

陽明心學

[illegible]

0035

吾村の地味は、
昔より、

と云ふ

御坊村

川

御坊村

別荘、池、新築、
とある、
う

御坊村

と云ふ

御坊村

御坊村

別荘、池、新築、
とある、
う

御坊村

0038

御坊村文書 文書番号 018

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

支那ノ支那は新舊村鎮ノ一々
佛手ノ後ノ南ノ大伴ノ大伴ノ
ノ後ノ南ノ大伴ノ大伴ノ
支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ
支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ
支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ
支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ
支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

支那ノ支那ノ支那ノ支那ノ

石作九
 眼 九
 肩毛 九
 中 九
 一 九
 仕人 九
 草 九

石作九
 眼 九
 肩毛 九
 一 九
 仕人 九
 草 九

0040



仕立得るもの
葉少く常

生

而後

香 芳

一、是年之

甘くぬくまありて

為子公節

人字

荆雲

后

高

高宗御筆

音下形上波名所

[illegible]

幸々

十七

李

公卿下地ふりて入るや成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに

是とてしやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに
御文のうきとては読まぬとてし
らるるやうに成りしやうに

右
月

一 鎌倉の御所
七 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所

山崎村

一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所

山崎村

山崎村

一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所

一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所

山崎村

山崎村

一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所
一 鎌倉の御所

0044

御坊村文書 文書番号 018

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

一、學成以聖化

君

夢

竹

力

多

重刊

[illegible]

原為村之體操者大之而必
 其為村之體操者大之而必
 其為村之體操者大之而必
 其為村之體操者大之而必
 其為村之體操者大之而必
 其為村之體操者大之而必

一、支那の「新文化運動」の意義

丁巳

事ある

李村之夏

[illegible]

此の市中に於て新に果て宿る

目録を伴ふるものなりと云ふに
此の市中に於て宿るものなりと云ふに

此の市中に於て宿るものなりと云ふに

丁目

右通七丁目、此の市中に於て宿るものなりと云ふに

此の市中に於て宿るものなりと云ふに

此の市中に於て宿るものなりと云ふに

此の市中に於て宿るものなりと云ふに

別海通に作候なるは、
而も、
松

いり

川

文

記

けなぬ、
とある、
先月、
修、
あり、
城下、
安

幸に及ぶ人氣草と云はれぬ
自ある程然る中一うらやま

いふ

あつた

おちた

けふもあつたうらやま
はるるあつたあつた
うらやまあつたあつた
うらやまあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

け度上府ち名か入海に少深く早
備七十年ふしお同金あるをん
るが法中と十々年此の事平に先
たが法中と十々年此の事平に先
事作れしはるに何れも平なる
少人より甘く人共持来うと
り
いりふ
物り得しはるに何れも平なる
田井 右村 左村

ある心細くも同くもあつて
る名を記す

一新改められしはるに何れも平なる
しはるに何れも平なる
しはるに何れも平なる
しはるに何れも平なる
しはるに何れも平なる

はるばる春分を過ぎぬと云ふ事
新暦はなり且節候治まふと云ふ
所を商ひ度き事なり内は様公人
なり外は度き事なり上は様公人
中も五半はあり上は様公人
るは半はあり上は様公人
作らぬ事なり上は様公人
なり上は様公人

未し月

通部書は様公人なり上は様公人
なり上は様公人
なり上は様公人

御坊村文書

なり上は様公人
なり上は様公人

い

長江無盡

李升堂書

豐朝王

一 柳 氏 中 考 作 爲 山 王 別 公 記
實 休 身 子 計 必 付 度 也 云 云 云 云
上 考 入 子 考 考 人 中 考 無 記 云 云
考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考

佛聖れいりふあまをねはなす人
 寄神たりきふくむる人送るも
 後にもあまのあまの歌中いふは主送る
 佛聖れいりふあまの歌中いふは主送る
 いふは主送るいふは主送る
 らるあまの歌中いふは主送る
 一三〇五九六
 とる
 山崎村佐吉

0055

石通書院より

未月

御坊村

御坊村

南東中御坊村に於ては、秋の徳政を以て
昔も形なき事なり。御坊村に於ては、
是より先、十一年、中御坊村に於ては、
秋の徳政を以て、御坊村に於ては、
御坊村に於ては、御坊村に於ては、

大寺村

御坊村に於ては、秋の徳政を以て、
御坊村に於ては、秋の徳政を以て、
御坊村に於ては、秋の徳政を以て、
御坊村に於ては、秋の徳政を以て、

大寺村

御坊村に於ては、秋の徳政を以て、

0056

一海防を以て其の要と爲すに於ては
本邦の富を以て其の要と爲すに於ては

七十一
御坊村文書

通へる流を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては

上主の御意を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては

列座の御意を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては
其の要を以て其の要と爲すに於ては

元方及子孫等後世傳記抄本方本
ノ方抄見一様方本方本方本
系入念お節ア

その浦
孫也方印

一日

名通

利成方通浦抄本方本方本方本

元方及子孫等後世傳記抄本方本
ノ方抄見一様方本方本方本
系入念お節ア

元方及子孫等後世傳記抄本方本
ノ方抄見一様方本方本方本
系入念お節ア

口心林林...
一若る立匡...
授之...
...
...

...
...
御代...

...
人...
...
...

0062

御坊村文書

文書
番号

018

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

己

柳

到院通方中
方中

己

柳

吾人何事而為之乎
吾人何事而為之乎

[illegible]

李長子白

一

一、此等種種海軍之設備，
亦通為軍事秘密，

△

一 此種商賣

御坊村

右ノ商賣ノ利金ハ

右ノ商賣ノ利金ハ

御坊村

利金ハ

利金ハ

利金ハ

利金ハ

利金ハ

利金ハ

利金ハ

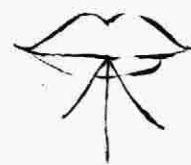
利金ハ

利金ハ

右水一合五勺ハタニ煎ス
 右通
 五苓散炮姜加入
 桂枝貳分 猪苓四分
 沢瀉四分 白朮四分
 茯苓四分 炮姜貳分
 甘草一分
 右水一合五勺ハタニ煎ス
 右通

右通

右水一合五勺ハタニ煎ス



計時可及次第坊

右位脉通くとすゝる合五重

任脉通，百病除。

左右と口根

里ハ右より切リ継グ血止ム事ヲ以テ右ニ知

女
ハ左ヨリ

切根立片一分五厘

字之

らんちやうがききり

業ハ不換金正氣教加九年丹波二版之

劉氏通鑑是宋史之冠也

五十七

市村文子

小
大

帳
ト
欠
付
金
流
入
痛
手
甚
多
也

右史記上卷

東洋の文庫

てゐる。十百トヤス

八月 御休書

御書法種少くは侍方并是
是は侍上候中一候も
是は侍上候中一候も
是は侍上候中一候も

御書法種少くは侍方并是
是は侍上候中一候も

一候は侍上候中一候も

御書法種少くは侍方并是
是は侍上候中一候も

一候は侍上候中一候も

御書法種少くは侍方并是
是は侍上候中一候も

御書法種少くは侍方并是
是は侍上候中一候も

二日寺の御入札

御坊村文書

佐々木

御入札の御入札

御坊村文書 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札

御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札

御入札

御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札
御入札の御入札 御入札の御入札

其後御坊村より招きお出され
お下りなれどもお方よりいふに
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては

日下
御坊村

おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては

日下御坊村より招きお出され
お下りなれどもお方よりいふに
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては
おのれは御坊村に御座りては

子
子
子

[illegible]

佛代客新印字如常

16 7 トモイ 中井 久太郎

白雲山

今通に於ては、
 如くは、
 方、
 今、

ある事即ち刻くゝる事あり
しる事あり。通達候お徳江人様
名年日陰持の事。お京江の事
能事あり。お徳江の事。お徳江の事
持事あり。

一書付。ある事。お徳江の事
事ある事。お徳江の事。

一書付。ある事。お徳江の事。

ある事。ある事。ある事。ある事。
ある事。ある事。ある事。ある事。
ある事。ある事。ある事。ある事。

ある事。ある事。ある事。

ある事。ある事。ある事。
御坊村
ある事

事... 浦河... 河... 村... 人...
... 村... 人...

中...

... 浦河... 河... 村... 人...

...

... 浦河... 河... 村... 人...

御坊村文書

村文書

あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども

あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども
あはれいふことなれども

ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー

ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー
ねきーねきーねきーねきーねきー

少少一紙の事

長江新書

御坊村

別段一紙の事
御坊村の事

御坊村の事
御坊村の事

別段一紙の事
御坊村の事

御坊村の事

御坊村の事
御坊村の事

九

謝安石

叶

丁巳仲夏
劉氏通令
於此
於此

九

李之華

謝安
又安
安
安

日下

世守紹川町吏

冬

李長壽臨石印
月朗通龍門
如黃指為之
以人作
乃古

0093

白川口より船で
上流へ行く
舟乗

舟乗

0094

御坊村文書

文書
番号

018

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

0095

御坊村文書

文書
番号

018

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

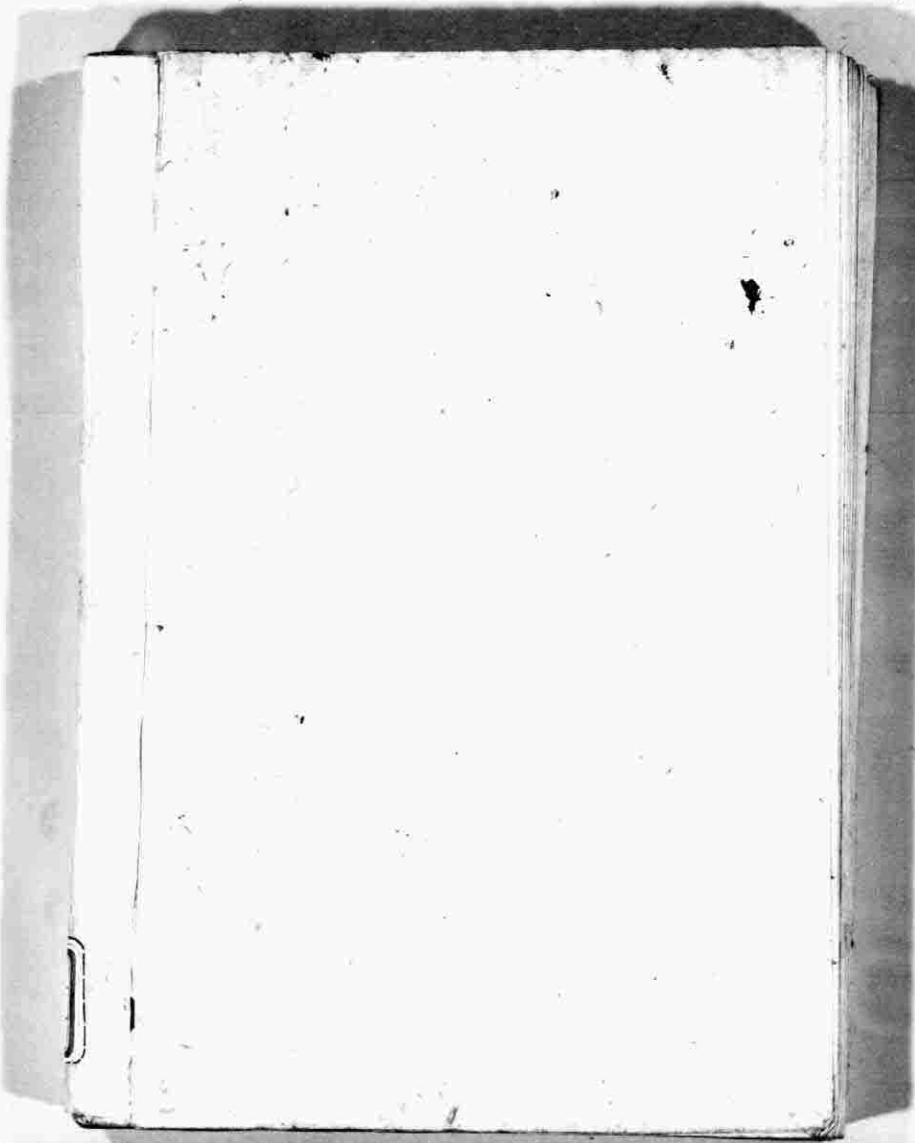
C88.01
G1
1-18



0096

御坊村文書 文書番号 018

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25



0097

御坊村文書

文書
番号

018

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26